

富士市空手道連盟

◆沿革

空手道は、琉球王国時代の沖縄で発祥した徒手空拳の格闘技であり武道です。。本土には大正時代に伝わり、第二次世界大戦後、日本を始め世界各地に広まりました。

富士市空手道連盟は昭和34年に設立し、全日本空手道連盟に所属し、複数の流派が所属する、寸止めルールを採用する伝統派空手です。現在、市内の15団体が加盟し、空手道を通じて広く青少年を中心に市民の健全な人格形成に努めています。

=富士市空手道連盟の沿革=

- ・昭和34年 相沢大一郎師範、石川勝雄氏、佐野洋三郎氏らの尽力で、2月に空手道連盟和道会吉原分会を設立し、吉原警察署道場を借用し稽古を始めた。ここに、富士岳南地区に空手道場が始めて誕生し、富士市の空手界の礎となす。代表者は、石川勝雄氏になる。
- 同年 吉原市空手道連盟が設立される。初代会長に渡辺豊彦氏が就任し、ここに富士市の空手界の礎となす。
- ・昭和35年 吉原市体育協会に加盟した。
- ・昭和37年 吉原市スポーツ祭に初参加し、演武会を開催した。
- ・昭和38年 松野正章氏、望月暁之氏の尽力により、吉原市役所内に空手道部が設立された。
- ・昭和41年 秋山武士氏の尽力により、大淵地区に養心館道場が設立され支部となる。
- ・昭和42年 吉原市、富士市、鷹岡町の二市一町の合併により、富士市空手道連盟と改称した。
同年 第1回富士市スポーツ祭に参加。
- 同年 東京日大講堂において、全日本空手道選手権大会が開催され、富士市から代表選手が出場した。
- ・昭和43年 斉藤隆夫氏の尽力により、昭和自動車学校内に空手道部が発足した。
- ・昭和45年 全日本空手道選手権大会が東京駒沢体育館にて開催され、富士市から代表選手が出場した。
- ・昭和46年 渡邊邦義氏の尽力により、神戸地区に親和会道場が設立された。後、日本空手協

会富士支部となる。

- 同年 高橋秀臣氏の尽力により、吉永一小、東中に青少年学級空手の部が開設された。
- ・昭和47年 勝亦光明氏の尽力により、大淵地区に青桜会道場（支部）を設立した。
- 同年 井口泰利氏の尽力により、吉原柔剣道場を会場に少年部が発足した。
- 同年 日笠山哲成氏が中心となり、旭化成に空手部を設立した。
- 同年 全日本空手道連盟が、日本体育協会に加盟した。
- ・昭和48年 静岡県空手道連盟が、静岡県体育協会に加盟した。
- ・昭和50年 遠藤計一氏の尽力により、天間地区に日本空手道研修会紳陽塾が設立された。
- 同年 渡邊勇一氏の尽力により、伝法地区に勇和会道場が設立された。
- ・昭和52年 静岡県空手道選手権大会を、関係各位のご尽力を得て、富士市体育館で初めて開催した。
- ・昭和55年 富士市勤労青少年会館に、石川勝雄氏、山野政宏氏の尽力により空手道講座が開設された。
- ・昭和56年 太田晴久氏の尽力により、日本空手道常心門富士支部が設立された。
- ・昭和59年 飯山修氏の尽力により、富士柔剣道場にて和道流修空塾が設立された。
- 同年 近藤善之氏の尽力により、今泉地区に日本空手道連合会空心会静岡支部が設立された。
- ・昭和62年 五十川敬子選手が、空手道形の部で国民体育大会沖縄大会に富士市から静岡県代表として初出場し上位入賞を果たした。
- ・平成 2年 山野政宏氏の尽力により、社会教育の一環として、富士市立田子浦公民館において少年空手と和道流田子浦道場が開設された。
- 同年 高木康治氏の尽力により、元吉原小学校体育館を道場に、和道流富士志空館が開設された。
- ・平成 5年 大村充宏氏の尽力により、静岡県富士見高等学校にて沖縄少林寺流日本空手道拳心館として、富士見高等学校空手部が開設された。

- ・平成 7年 渡邊勇一氏代表の勇和会道場が、日本空手協会富士岳南支部伝空館となる。
- ・平成12年 石川勝雄氏が、富士市体育功労賞を受賞する。
- ・平成13年 小林靖氏の尽力により、日本空手道常心門富士至誠会が富士市中央小学校体育館を道場に開設された。
- ・平成14年 富士市空手道連盟の規約や組織の見直しを図り、初の総会が富士市農協会館にて開催され、新たな富士市空手道連盟として発足した。会長は、石川勝雄氏が就任し、加盟団体は11団体で発足した。なお、顧問に、鈴木尚富士市長、相談役に、渡辺勝富士市議会議員、勝亦光明富士市農協専務理事が就任する。
○加盟団体（11団体）
和道流富士支部、日本空手道協会富士支部、和道流修空塾、日本空手道協会富士岳南支部伝空館、和道流富士志空館、日本空手道常心門富士至誠会、静岡県富士見高等学校空手道部、和道流田子浦、空心会、研修会、富士市役所空手道部
- 同年 石脇智氏の尽力により、須津中学校体育館を道場に朱心館が開設された。
- 同年 木村健太郎選手が、日本空手協会主催の全日本選手権大会にて、富士市の代表選手として形の部に出場し優勝した。
- ・平成15年 太田晴久氏が新たに、沖縄少林寺流日本空手道拳心館を松岡地区に設立した。
- 同年 伊藤愛華選手が、東日本実業団空手道選手権にて、個人女子組手の部に出場し優勝した。
- 同年 飯山修氏が、静岡県空手道連盟審判委員長に就任する。
- 同年 A—1スポーツプラザに、古流現代日本空手道常心門A—1富士支部が開設される。代表者、奥山陽介氏。
- ・平成16年 渡邊邦義氏が、富士市体育功労賞を受賞する。
- ・平成17年 木村健太郎選手が、船越義珍杯世界空手道選手権大会にて、形の部に出場し第5位となる。
- 同年 日本空手道拳心館が富士市空手道連盟に加入する。
- ・平成18年 村松清隆氏の尽力により、古流現代日本空手道常心門青光会が富士南中学校体育館に設立された。

- 同年 古流現代日本空手道常心門青光会が富士市空手道連盟に加入する。
- 同年 飯山修氏が、富士市体育功労賞を受賞する。
- ・平成19年 山野政宏氏が、富士市体育協会副会長に選任される。
- ・平成20年 朱心館が富士市空手道連盟に加入する。
- 同年 富士市空手道連盟が、富士市教育文化スポーツ奨励賞を受賞する。
- 同年 石川勝雄氏が、静岡県体育功労賞を受賞する。
- 同年 渡邊勇一氏が、富士市体育功労賞を受賞する。
- 同年 山崎博氏の尽力により、和道会瑞空塾至誠道場が富士第二小学校体育館で開設された。
- 同年 瑞空塾至誠道場が富士市空手道連盟に加入する。
- ・平成21年 富士市空手道連盟が設立50周年を迎える。
- 同年 山野政宏氏が、富士市体育協会副会長に再任される。
- 同年 富士市民エンジョイスportsデイにおいて空手道教室を初開催する。
- ・平成22年 富士市武道協議会の設立に尽力し設立に参加する。
- ・平成23年 古流現代日本空手道常心門A—1富士支部が富士市空手道連盟に加入する。
- 同年 相談役に、鈴木澄美静岡県議会議員が就任する。
- 同年 富士市委託スポーツ教室を市内8道場で開催する。
- 同年 第一回富士市武道演武会に参画し開催の成功を果たす。
- ・平成24年 本年度総会において役員改選が行われ、会長に渡邊邦義氏、相談役に川窪吉男富士市議会議員が就任する。
- 同年 加藤秀雄氏が、富士市体育功労賞を受賞する。
- ・平成25年 山野政宏氏が、富士市体育協会会長に選任される。

- 同年 相談役に、山野政宏富士市体育協会会長が、就任する。
- 同年 加藤秀雄氏の尽力により、須津中学校体育館を道場に日本空手協会富士東支部が開設された。
- ・平成26年 本年度総会において役員改選が行われ、顧問に小長井義正富士市長が就任する。
- 同年 谷津倉吏音、幡野克弥選手が和道会全国大会組手の部で優勝、鈴木陽斗、藤島宏成選手が3位となり富士市長を表敬訪問する。
- 同年 高木康治氏が、富士市体育功労賞を受賞する。
- ・平成27年 谷津倉吏音、幡野克弥選手が和道会全国大会組手の部で優勝、同世界大会で谷津倉吏音選手が優勝し、富士市長を表敬訪問する。
- ・平成28年 山野政宏氏代表の田子浦道場が、和道流田子浦塾となる。
- 同年 幡野克弥選手が東アジアジュニア&カデット空手道選手権大会組手の部で優勝し、富士市長を表敬訪問する。
- 同年 井上邦弘氏が、和道流富士支部長に就任する。
- ・平成29年 富士市長を訪問し、富士市総合体育館建設基金に寄付をする
- 同年 石川勝雄名誉会長が、ご逝去。
- 同年 太田晴久氏が、富士市体育功労賞を受賞する。
- ・平成30年 近藤善之氏が、富士市体育功労賞を受賞する。
- 同年 静岡県立富士特別支援学校 実演・講習会 講師派遣
- ・令和元年 公認級位審査会が開設する。
- 同年 石川紘之氏が、日本空手道常心門富士至誠会支部長に就任する。
- ・令和2年 新型コロナウイルス感染拡大、感染防止策とし、事業中止となる。
- ・令和3年 渡邊勇一氏代表の日本空手協会富士岳南支部伝空館閉館となる。

